

# 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3291800013		
法人名	株式会社 海愛		
事業所名	グループホーム ふくろうの森 1F ひだまりユニット		
所在地	島根県邑智郡川本町川下1319-15		
自己評価作成日	平成23年10月25日	評価結果市町村受理日	平成23年12月16日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.katigokounyou.jp/katigosp/informationpublic.do?JCD=3291800013&amp;SCD=320&amp;PCD=32">http://www.katigokounyou.jp/katigosp/informationpublic.do?JCD=3291800013&amp;SCD=320&amp;PCD=32</a>
----------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPOLまね介護ネット		
所在地	島根県松江市白潟本町43番地		
訪問調査日	平成23年11月18日		

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

山間地だが、国道沿いで周辺各地からのアクセスの良い場所に立地する。小規模のメリットを活かし、家族的で、かつ利用者の意思・主体性を可能な限り尊重した温かみのあるケアを実施している。施設内外での研修により職員のスキルアップに努めるとともに、利用者と積極的に関わりをもち、コミュニケーションを十分にとるなかでの観察や感触に基づいた職員間の情報交換及び情報の共有、また病院などの外部機関との連携はもちろん、家族との良好な関係づくりに努め、その意向に配慮して、利用者の実態と周辺状況に即応した認知症ケアを目指している。一方で、地域、施設の諸行事や会議への相互参加、地域のボランティアの受け入れ等を通して、地域とのつながりも近年とみに深まり、認知症や施設の活動・役割への理解にも深化が見られる。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

地域の人にもらった小豆の皮むきや食事の準備、手作業など、利用者が生き生きと楽しく生活できる場面を多く作り利用者に合わせた支援をしている。入居間もない利用者が「何だか楽しいね」と言える雰囲気があり、地域の人や医師、町の担当者、家族、ボランティアなど関係者が協力して利用者の生活を支えている。代表者、管理者は、職員が主体的に業務に取り組めるように職員の配置を工夫したり勤務時間の調整を行い、働きやすい職場作りを行っている。来春開設予定の事業所の職員も一緒になり日々サービスの向上に努めている。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)		

## 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を目につく場所に掲示し、会議などでも常に確認し合って日常的な意識づけを行いながらケアの実施に努めている。	全体会で確認しあったり、ホール内やトイレなど目につく所に掲示して意識付けを行い実践に繋げている。職員は理念と自分の目標を明示したカードを持ち常に意識している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の行事に参加したり回覧物の手伝いをしながら、顔なじみの関係を作っている。散歩の途中で近隣の方と立ち話もして楽しんでみている。	散歩の時は必ず声をかけあい、地域の運動会では利用者のために競技を考えてくれるなど、顔見知りの関係が築かれている。開設時より積極的に交流をしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方や中高生のボランティア、職場体験など各種研修の受け入れを通し、認知症ケアの啓発に努めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1回推進会議を実施し、ボランティア、消防、近隣の方にも参加してもらって、施設の現状・サービスの実際を公表し、意見交換をしてサービスの向上に活かしている。	会議の時間や内容、出席者を工夫し、状況を報告しながら意見交換を行い助言を運営に活かしている。7月には一緒に避難訓練を行い、9月にはボランティアとの意見交換を行った。	遠方で出席できない家族も多いので、会議の内容を伝える工夫を望みたい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	介護保険課、包括支援センターに気軽に出入りでき、また推進会議への参加をいただいで、サービスへの取組み、活動状況について、報告・相談できる関係が築けている。	日常的に状況報告を行い気軽に相談できる関係が築かれている。運営推進会議への出席のほかにも、時々訪問してもらっている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	各種研修に積極的に参加し、研修終了者を中心に勉強会を行い正しい知識を培うことに努め、必要時には話し合いをしている。	研修会で学んだことを全職員で共有しあい身体拘束をしないケアを行っている。気づいたことはみんなで話し合っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修終了者を中心に勉強会を行い、虐待について理解を深め、小さな気づきも報告し、話し合う機会を持っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	施設内での勉強会や資料配布、外部研修により繰り返し学習している。また、事例研究を通し、更に理解の深化を図っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約に関する書類の説明は分かりやすい表現を用いて行っている。必要があれば繰り返し説明し、分からないことや誤解が生じないよう努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	何でも気軽に話せる雰囲気や環境づくりを心掛け、家族から話を聞く機会を持ったり、関係づくりに努めている。要望があれば職員全員で考え、改善策を家族にも知らせている。	家族の訪問時には毎回意見を書いてもらう紙を渡している。主任が地域で開催された「家族の集い」に参加し、普段は聞けない家族の思いを聞き、家族の状況や心情を理解しながら支援することを職員に伝えている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日頃から職員間のコミュニケーションを活発化するように心がけ、意見や提案しやすい環境づくりに努めている。朝のミーティング時には、必要に応じて意見交換を行っている。	管理者は職員が意見を言いやすい環境作りを行い、会議の場や主任、ユニットリーダーを通じ意見を聞いている。職員からの意見が多く出るようになった。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員個々への声掛けやねぎらいの言葉がけをしながら職場環境の向上に努めつつ、話し合いなどを通して意見を直接聞き、可能な部分は環境整備に反映させ、モチベーションアップにつなげている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修に積極的に参加し、新しい職員にはチェック表を使って一つ一つのケアを細かく教えるように努めている。また、内部の研修会や報告会等で学びを共有している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他の事業所への見学や実習などの交流、研修を通じた仲間づくり、情報交換をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者が不安にならないような声掛け、気分をリフレッシュするためのレクを提供している。また利用者との初期面接で生活歴や思い、困っていることなどを直接聞き、利用者の思いに共感するよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族に十分意見を聞き、サービス計画書に反映させている。利用者の生活の現状や体調をふまえ、ニーズに即したサービスの提供と共に、家族支援にも力を入れている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	自宅に訪問し、実際の生活を見せていただいた上で家族・利用者から聞き取りをしている。また、サービス担当者会議、アセスメント会議を適宜行い対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者に要望、困っていることなどを聞き、また一方で、人生の先輩としての多くの生活の知恵や経験を聞かせてもらい、支えあう関係づくりをしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の来所時、利用者の様子を知らせたり、利用者と家族が話せる機会をつくるように配慮している。また、利用者の状況やサービスについて、家族と話し合える場を持つことに努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	地域のミニデイに参加したり、馴染みの店に買い物や散髪に行ったりして、住み慣れた地域の風景や人に接する機会を持つように意識している。	親戚や地元の人との面会や、行き慣れた店などに行っている。外泊や地域のミニデイにも継続していけるよう支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	レクや外気浴の際、単独の利用者ではなく、複数人で行えるよう声掛けしている。また、席についても仲の良い人の隣にお誘いしたり、利用者同士の関係の構築にも配慮している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用終了後も、家族から退所後の様子の連絡や問い合わせ、相談などがあり、必要に応じて支援をしながら、気軽に立ち寄れたり、相談できたりする関係を作っている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ベッドでなく畳を好む利用者への畳の提供、一人になりたい時の静かな場所の提供など、日々の関わりのなかで利用者の思いや希望を聞き、利用者の意に沿っていくよう努めている。	日々の会話や表情、関わりの中で思いを把握し、職員間で共有しながら支援している。職員は利用者の生活層を把握し、力を活かせる場面作りをしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	部屋掃除や台所仕事、洗濯や草とり、外出しての買い物や飲食など、本人、家族、ケアマネから情報を得て、入居以前と変わらない生活ができるような環境づくりに努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	記録で1日の様子が分かるように、変化があった時などは色ラインを入れて一目で分かるようにし、ケア記録に詳しく状況・状態を書く。利用者個々に主担当職員を設定し、手厚い支援を心掛けている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者、家族の思いを介護計画に反映させ、毎月モニタリングで話し合い、修正を加えつつ、よりニーズに即した介護計画になるよう努めている。	利用者、家族の希望を反映させ、職員間で情報交換を行いプランを作成している。担当者会議に家族も参加することがある。チームとしての取り組みを大事にしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ユニット利用者の1日の様子が分かりやすいように時系列で利用者の一日を記録、さらに時々の利用者の表情も記録する。利用者全員のこうした記録が日別の一覧できる様式にしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者、家族の意向や状態に配慮しながら、各種イベントや外出、外食、病院受診、金融機関への付き添いといった必要な支援や娯楽を提供している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティア、訪問散髪、生け花教室、ミニコンサートなど地域の方の活躍により支えられている面もある。散歩や買い物の途中の立ち話しに利用者が参加することもある。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	担当のかかりつけ医とはいつでも相談可能で連携ができており、利用者・家族の意向を聞き、納得の得られる医療を受けられるようにしている。	利用者、家族の希望するかかりつけ医になっていて、24時間、安心して適切な医療が受けられる体制が築かれている。往診や必要時には受診の支援をしている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	利用者の体調・状況に応じて疑問点や不安があれば、適切な対応について早期に看護職に相談し、アドバイスをできるようにしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院先の医療連携室と連絡をとりあいながら、入院中も安心して治療ができるようにしている。病院関係者とは良い関係を築くよう意識的に関わっている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	病状の進行により、本人や家族の思いを確認している。その場合、事業所でできること、出来ないことを説明し、十分な話し合いをしている。医療機関とも連携をとり、チームで支援している。	医師との連携がとられていて、関係者と話し合いながら事業所としてできる最大限の支援を行っている。緊急時の対応について職員は会議で話し合っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防署の協力を得て救急救命法の研修や防災・非難訓練が定期的に行われているが、夜間の対応など実践力を身につけるには、その頻度を高め、ケースワークを積む必要があると思われる。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署や地域の協力を得た避難訓練も実施されているが、特に夜間の体制はまだ改善の余地がある。	運営推進会議を夕方から行い、消防署、市の担当者、地域の人、家族と一緒に夜間想定訓練を実施した。今後の課題も積極的に話し合っている。自治会の備蓄米を保管するなど、地域との協力関係を築いている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	居室への出入り、入浴時やトイレ使用時の確認時のプライバシーに配慮した声掛け、また、説明し利用者の同意を得て支援し、職員の個性に依るだけでなく、協議、学習により、利用者尊重を実現している。	利用者のペースでの生活を尊重し思いを大事にした支援をしている。居室への出入りやトイレへの誘導などもプライバシーを配慮した声かけや対応をしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者との対話機会や表情の観察を欠かさず、心身の状況や意思の確認に努め、職員間の情報交換や日々の申し送り、ユニット会などを活用し利用者が思いを表現しやすい環境づくりを図っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者への目配りを心掛け利用者の趣味・嗜好・行動傾向等を把握し、職員間の連携をとりつつ、利用者への対応を行っている。利用者個々の状態やペースと希望に合った生活ができるような支援をしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	家族の意思も確認して、時節、健康や衛生、また利用者の好み・主体性などに配慮して服装に関する支援や管理、補充を行う。自分で身だしなみを整えられたり、行きつけの美容院等の利用も可能にしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の自立度と主体性に応じて、軽度の食事準備や片付けをしている。食事は利用者とコミュニケーションをとりながら、嗜好や食事量、嚥下機能の観察なども含めて一緒に摂っている。	野菜の下準備や盛り付け、お茶を入れる手伝いなど、利用者の力が活かせる場面を多く作り一緒にやっている。利用者のペースにあわせて支援し、会話をしながら楽しい場面作りをしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事、水分の摂取量を記録し、利用者の状況を考慮した栄養と水分の補給に努めている。メニューの点検・改善は「食事委員会」で行い、必要時には個別に、食事形態、量、バランスなどを検討している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、歯磨きの声かけを行っている。介助が必要な利用者には、職員が適切な方法で、口腔内の清潔保持に努めている。必要時には、早めの歯科受診をし心掛けている。義歯洗浄を定期に実施している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個別の排泄パターン、サインを知り、適切に声掛けしトイレ誘導する。紙パンツの使用は自立阻害回避のため慎重にするが、使用による利用者の安心感は考慮している。	一人ひとりの排泄パターンを把握し、本人の言葉や様子から適切な声かけを行い、利用者に合わせた支援をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	自然排便を促すよう水分摂取の工夫や運動、腹部マッサージなどを行っている。必要があれば医師に相談する。ヨーグルト、バナナの摂取など、便秘予防にも気をつけている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴を好まれる方には毎日、本人が好まれる時間帯に声掛けをしている。介助が必要な人に対しては入浴日を決めているが、ゆっくりと気持ちよく入浴できるよう接している。	利用者の希望に沿った支援をしている。職員二人で支援する人は午前中にゆっくり入れるようにしている。入浴を嫌がる人には温泉に行くなどいろいろ工夫している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	身体的状態により午前・午後に居室で休んでもらう場合もある。ホールでも横になれる空間づくりをしている。また、なるべく動いて充実した一日を過ごしてもらい、夜、気持ちよく眠られるようにしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬剤情報提供書が常に確認でき、個々が服用する薬の効果・副作用などが確認できる。服薬の際は一覧表を作り3回チェックして飲み終わりまで確認、薬の変更の際は利用者の状態を観察し、医師へ報告する。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人一人に役割・楽しみがあることを実感でき、生活に張りや生き甲斐が感じられるように支援している。会話や関わりのなかでも笑顔が見られる関わりを行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	洗濯物を干したり、花を摘んだり、畑を見に行ったり、外出・外食をしたり、利用者の希望に沿って自由にしてもらっている。介助が必要な人や車椅子の人も、天気の良い日にはなるべく外に出るようにしている。	散歩や買い物、草取り、カフェに行くなど、希望に沿った支援をしている。1階ユニットは介助の必要な人が多いが、できるだけ外に出るようにしている。	



自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の管理ができる利用者は本人が所持している。できない人については家族から預かり、本人の希望があれば渡す。安心される金額を常に財布に入れておく。など、個別対応している。			
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族との関係は大切にしたいと思っている。電話をしたい時は利用者の気持ちを尊重し、早朝や深夜、また電話相手の意向に反する場合でない限り自由に行っている。場合を見て、こちらから勧めることもある。			
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族的な雰囲気を取り入れることを基本にしている。ホールは歩きやすいようテーブルやソファの位置に配慮している。また、季節感を味わえるようテーブルに花を飾ったり、模様替えをして楽しんでいる。	季節の花や行事の写真、利用者の俳句、みんなで作り地域の文化展に出品した貼り絵などを飾り温かみのある空間作りをしている。2階ユニットでは熱帯魚を飼っている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールの席、ソファへの誘い、利用者同士の関係、好みの場所での一人休憩、などに配慮している。個々が自由に過ごせる環境を提供し、読書やパズルなどが随意にできるようにしている。			
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	部屋の環境作りには、利用者の思いを大切にしている。部屋には家族の写真、花、地元のカレンダーなどを飾ったり、愛用していた家具などを持ち込んでもらっている。卧床時間が多い人の環境にも配慮している。	使い慣れたタンスや鏡台などを持ち込み、写真や家族からの手紙、花などを置き安心して暮らせる居室作りをしている。職員もアルバムを置くなど、日頃の生活ぶりがわかる配慮をしている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者個々に沿った表示をしたりして、自立した生活がおくられるようにしている。ホールから台所や物干し場が見え、利用者の主体的な作業参加が促されやすい環境になっている。			